

画像・バイオマーカー縦断コホート研究によるプレクリニカルアルツハイマー病 進行機序の解明

代表機関/代表者：東京大学 新美 芳樹
研究期間：2021年度～2025年度

研究開発目的

アルツハイマー病(AD)の超早期段階として、脳病理が既に出現しているが、認知機能はほぼ正常なプレクリニカル（前臨床期）期は、疾患修飾薬を含めた予防的介入の標的としても重要である。本研究は、プレクリニカルADと診断される被検者を前向きに追跡し、臨床的移行に対応した病態変化、進行を評価・予測可能する指標、認知症及びADの危険因子として知られる生活習慣や遺伝要因の影響、などを明らかにし、進行度及び進行性を含む層別化を可能な指標を同定する。

取り組み

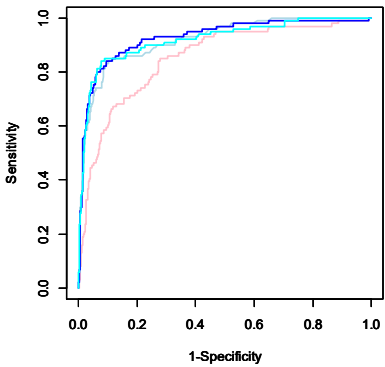
プレクリニカルADと診断される参加者をJ-TRC研究等の先行するレジストリ・コホートと連携して登録・追跡する前向き疾患コホートを構築する。

成果

91例を登録済み。フォローアップ含め116件のタウPET撮像を完了。ウェアラブル加速度計を用いた睡眠解析、動作解析などのデジタルマーカー候補のデータを33例で取得。保存検体を用いて血漿血液バイオマーカー測定を実施。

今後の展開

タウPET評価方法を確立し、データを統合解析、プレクリニカルADを病態から層別化し、進行機序や指標を解明する。またデータシェアリングを推進する。



血液バイオマーカー
(BM) によるアミロイド
PET陽性の予測能を検証

得られたBMについて1年後のCDR-SB悪化予測能検証

